

## 編 集 後 記

最近面白いことに気づきました。若者に「～～について調べておいて」と言うと、彼らがしばしば、Googleで検索してくる(つまり「ググる」)のです。それでネットで拾ってきた図表とかをカンファなどでも出してくる。誰が書いてたの?と尋ねても当然即答できないことが多いです。私のような世代にとっては、PubMed、医中誌によるネット検索ができるようになったのが画期的な変化で、何かを調べる=「PubMed、医中誌で調べる」ということが常識となっていました。若者もそれを知らないわけではないのですが、どうもともすれば、「ググる」方を優先してしまうようです。PubMed、医中誌で調べてもその場でPDFが入手できない文献は、取り寄せなどの手間が必要になるので、それが面倒という面もあるようです。

PubMed、医中誌で得られる文献と、ネットに転がっている情報の違いは何でしょう?それは査読によって質が保証されているか否かなのです(もちろん査読を受けていない

い総説類もあるでしょうが、その場合は雑誌自体が自らの責任で質を保証しているとも言えます)。ネット情報は良く言って玉石混淆、悪く言えば「便所の落書き」と同じです。例えば、人には認められていない独自の説を、さも当然の事実のように装って書くことさえ可能です。論文を書き上げて、査読を経て、採択されること、それはそれだけの労力に見合う、価値あることなのです。

「論文になってないことは、世の中に『ない』ことなのだ」というのは誰に聞いた言葉だったでしょうか。臨床神経は和文ではありますが、幸いPubMedにも載っており、検索でヒットすれば英文抄録も世界の人の目に触れます。最近はそこからJ-STAGE経由の全文PDFが簡単に入手できるようになりました。是非とも、「便所の落書き」ではない、本物の情報を自ら発信する喜びを、臨床神経の論文投稿を通じて、若者に知っていただけたらと強く望みます。

(園生 雅弘)

### 〈編 集 委 員〉

編集委員長 鈴木 則宏	編集副委員長 河村 滿
編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聰	
瀧山 嘉久 西野 一三 野村 恒一 星野 晴彦	
編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹 森 秀生	

「臨床神経学」 第55巻 第9号 平成27年9月1日発行

編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	高 橋 良 輔
印 刷 所	[郵便番号 602-8048] 京都市上京区下立売通小川東入	中西印刷株式会社

発 行 所 [郵便番号 113-0034] 東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス : <http://www.neurology-jp.org/>